

[論文]

神は今も語るのか—「預言カフェ」と 「新使徒運動」についての批判的考察

川 島 堅 二

1 はじめに

「預言カフェ」とは、東京キリスト教会（宗教法法人 ARISE5）が、2007年5月に東京の早稲田（早大通り）にスタートさせたカフェである。外観はごく普通のカフェだが、メニューには幾種類かのコーヒーの他に「預言」があり、この教会で訓練を受けた「預言者」による「預言」を聞くことができる¹。この団体はプロテスタントの中でも、アメリカのペンテコステ派やカリスマ運動にルーツを持ちつつ、近年は「新使徒運動」²というグローバルに展開されている宗教運動を背景に持っている。

この論考では、この「預言カフェ」の「預言」の批判的分析を行うとともに、その背後にある「新使徒運動」のもつ問題点について考察する。

2 「預言」と「預言者」の回復運動

東京キリスト教会の「預言」活動のルーツは、ペンテコステ派出身のアメリカ人牧師ビル・ハモンが1982年に米国で開始した「預言」のカンファレンス及びセミナーであ

¹ 「預言カフェ」の開設当初から現在に至る経緯等については以下の拙稿を参照。「預言カフェの挑戦」『キリスト新聞』No. 3526 2019年12月1日、「一杯900円のコーヒー」『キリスト新聞』No. 3531 2020年2月11日、「預言が当たるワケ」『キリスト新聞』No. 3536 2020年4月1日、「十字架なき福音!？」『キリスト新聞』No. 3541 2020年5月21日

² 原語はNew Apostolic Reformationで直訳すると「新しい使徒的宗教改革」である。「宗教改革」という語を用いたことについて、この言葉の提唱者であるピーター・ワグナーは「この新しい革袋が約五百年前に起こったプロテスタントの宗教改革に匹敵するほどの変化を意味しているから」とする。Wagner, Peter (ed.), “The New Apostolic Churches” California, USA 1998, p. 19（ピーター・ワグナー『使徒的教会の到来』マルコーシュ・パブリケーション 2000年 p. 20）。これに批判的なウィリアム・ウッドは「新使徒運動」と訳している。ウィリアム・ウッド『新使徒運動はなぜ危険か』いのちのこば社 2020年。本稿ではウッドにしたがって「新使徒運動」の訳語を用いる。

る³。この教会の「預言者」養成もハモン及びその影響下にあるロナルド・サーカーの著書に基づいて行われている⁴。そこでハモンやサーカーの「預言」理解を概括しておきたい。

ハモンは自らの「預言」回復運動を、16世紀の宗教改革以降、アメリカのホーリネス派、ペンテコステ派、カリスマ運動において共有されている救済史に接ぎ木をする形で位置付ける⁵。すなわち、1517年、ルターの宗教改革による信仰回復運動は、1867年ニュージャージー州ヴィラントで開かれたメソジスト教会主催の野外集会に始まるホーリネス派に継承され⁶、さらに1901年ホーリネス派の牧師チャールズ・パームによる「異言」の回復とペンテコステ派の誕生⁷、そして1960年代のカリスマ運動に展開していくとする。そして、聖霊が与える9つのカリスマ（賜物）の一つが「預言」であり⁸、1980年代からは「預言」の賜物の回復が始まったとするのである⁹。

この「預言」の特徴と定義について、ハモンは要約すると次のように説明する¹⁰。「預言」とは「神がご自身の思いと目的を人類に伝えること」である。その意味では「聖書全体がまさに預言」である。この聖書は「66巻に収録され、聖典となり（中略）これ以上何も付け加えられるべきではなく（中略）何も減らしても」ならない。聖書がそのように完全な神の啓示、神の「預言」であり、それを手にしているにもかかわらず、なぜ現在、新たに「預言」が回復されなければならないのか。ハモンは、聖書の中にある二つのギリシャ語、「ロゴス」（λόγος）と「レーマ」（ῥήμα）に根拠があるとする。

「ロゴス」も「レーマ」も共に「言葉」という意味だが、ハモンによれば聖書において、この両者は明確に使い分けられている。「ロゴス」とは、真理の言葉、聖書のことである。「ロゴス」は永遠に天上にあり、天地が滅びても滅びることのないものである。創造的で

³ Hamon, Bill, "Prophets and Personal Prophecy God's Prophetic Voice Today" Destiny Image Publishers, 1987. p. 28 (ビル・ハモン『預言者と個人預言-現代における神の預言の声』クリスチャンインターナショナルアジア2010年（第三版）p. 18-19.)

⁴ ロナルド・サーカー『預言を活性化する方法-新しい教会時代の必須経験』アライズ5出版2013年 この書においてサーカーはハモンを「預言的・使徒的運動の父」と呼び、現代における「預言の活性化を初めて体系的に教えた人」と述べている。p. 5

⁵ Hamon, B., "Prophets and the Prophetic Movement God's Prophetic Move Today", Christian International Ministries Network, 2003. p. 2

⁶ 青木保憲『アメリカ福音派の歴史-聖書信仰にみるアメリカ人のアイデンティティ』明石書店2012年 p. 81

⁷ 同上 p. 234

⁸ コリントの信徒への手紙I 12: 7-11

⁹ Hamon, B., "Prophets Pitfalls and Principles-God's Prophetic People Today", Destiny Image 1991. p. 118 (ビル・ハモン『預言者の落とし穴と原則-現代における神の預言的な民』クリスチャンインターナショナルアジア2000年 p. 173.)

¹⁰ 以下はHamon (1987), p. 49-55 (邦訳 p. 46 以下)の要約。

あり必ず成就し、首尾一貫していて、完全無欠であり、命を与えるものである。

これに対して「レーマ」は、個人的に語られた神からの「ある特定の言葉」を意味する。したがって、これはその「レーマ」を受けた個人には意味があっても、万人に適用されるべき真理というものではない。「ロゴス」は決して変わらず、絶えることもないが「レーマ」は条件付きの「預言」であり、誰にでも当てはまるわけではなく、条件が変われば変化もするし、効力が失われることもある。ハモンによれば聖書はこのような条件付きで「個人に与えられたレーマで満ちている」¹¹。

したがって、ハモンは説教者としては「ロゴス」を説教するが、預言者としては「レーマ」を語るという。ハモンによれば、聖書の全体的な真理（ロゴス）は、ある特定の事柄に対して、その真理を適用したり当てはめたりすることを保証していない。したがって説教者は常に、すべての人に適用される御言葉（ロゴス）を語るが、預言者は、特定の状況における、特定の人のために、個別に与えられた御言葉（レーマ）を語るとされる。このような「レーマ」としての「預言」が今日、回復されねばならないというのである。

以上のような「ロゴス」と「レーマ」の解釈が新約聖書テキストの釈義として妥当かどうかは後に検討するが、「預言カフェ」の「預言」を理解する上で、それが「ロゴス」と差別化された「レーマ」であるという点は重要である。ハモンの始めた預言運動が、その預言的中率の低さを理由に批判される場合がある¹²。しかし、この運動の「預言者」たちはそのような批判を全く意に介さないのは、彼らの「預言」が「ロゴス」ではなく「レーマ」だからなのである¹³。項を改めて、その「預言」の実例に基づいて内容の分析を行う。

3 「預言」の実際と内容分析

筆者は「預言カフェ」が開設された翌年（2008年）から2020年まで計6回カフェを訪れて「預言」を受け、それを録音するとともに、知人にも「預言」を受けてもらい、それも記録にとどめ、合計9つの「預言」を収集した。そのすべてを文字に起こし、この論考

¹¹ 具体例としてハモンは、箱舟造りを命じたノアへの預言、息子イサクを殺して犠牲に捧げよといったアブラハムへの預言、姦淫して奴隷に身を落とした女を妻に迎えよというホセアへの預言などをあげている。Hamon (1987), p. 53-54 (邦訳 p. 54)

¹² ウィリアム・ウッド『日本の教会に忍び寄る危険なムーブメント』ハーベスト・タイム・ミニストリーズ 2018年 p. 73 以下。ウィリアム・ウッド (2020年) p. 56 以下。

¹³ 東京キリスト教会の牧師で「預言カフェ」の創設者である吉田万代は、「預言が全く外れている」というカフェの客のクレームに対し、極めて率直に「間違った預言だったのですね。失礼しました」と謝罪している。また預言は条件付きの相対的なものなので、成就しない場合もあることを明言している。吉田万代『預言カフェ-神の言葉が聞ける場所』芸文社 2011年 p. 35, 114

の末尾に〈補遺「預言」記録〉として掲載している。ここではこの9つの「預言」について前項で明らかにした「ロゴス」と「レーマ」の観点から内容の分析を行う。「預言」引用は、各センテンス（句点で区切られた文）につけられた番号を（ ）に入れて示す。

記録された「預言」の中で、ハモンのいう「ロゴス」、すなわちキリスト教の普遍的永遠の真理と合致するのは、「神の愛」、「神の摂理」、そして「真理の宣言」の3つである。とくに「神の愛」はすべての「預言」の冒頭に以下のような形で述べられている。

「わが愛する息子よ」(1-2, 5-2)

「愛するわが息子よ、息子よ、私はあなたのことを愛し」(2-2)

「わが愛する息子よ、私はあなたを愛しています」(3-2, 8-2, 9-2)

「わが愛する娘よ、私はあなたを愛しています」(4-2)

「私の愛する娘よ」(6-2, 7-2)

場合によっては、この「神の愛」が「預言」の最後の方でもう一度繰り返される。

「わたしはあなたを愛しています」(3-23)

「あなたを愛しています」(4-23)

「愛するものよ、愛する娘よ」(6-16, 17)

「私はあなたを愛しています」(8-25, 29)

このように「預言」は絶対的な「神の愛」を土台、あるいは枠組みとしてなされているのである。

また、ハモンのいう意味での「ロゴス」（永遠かつ普遍的真理）としての聖書からの直接の引用と思われる「預言」は以下の4つである。

「私はあなたを良いものとして造りました」(創世記 1: 31) (1-2)

「わたしが真理です」(ヨハネ福音書 14: 6) (6-14)

「『初めの愛』という言葉が聖書にある」(黙示録 2: 4) (3-5)

「わたしはあなたの生まれる前から、わたしはあなたを計画し（中略）あなたを生み出したと主が言われます」(エレミヤ 1: 5) (7-3)

被造物に対する神の根源的な肯定（「良いものとして造りました」）、そして「神の真理」と「摂理」（「生まれる前から、わたしはあなたを計画」）、これらはいずれも永遠に変わることはない「ロゴス」であり、それ以外の「レーマ」としての「預言」を根底で支えている、あるいは枠組みとして規定している構造になっていることがわかる。

以上のような「ロゴス」に支えられて語られる「レーマ」としての「預言」の特徴は、否定的なことがほとんど語られないということである。伝統的なキリスト教では「預言」とか「預言者」というと何よりも旧約聖書時代のイザヤ、エレミヤ、エゼキエル、エリヤやエリシャを先ず思い浮かべる。その共通点は、為政者や民に厳しい裁きの言葉を伝えたことである。「平和」や「平安」だけを語る預言者はときに偽物として断罪される¹⁴。

しかし、ハモンの主張する「預言」及び「預言者」は、新約聖書の時代におけるそれであって旧約時代の預言者とは本質的に異なる。その聖書的根拠はパウロの「預言する者は、人に向かって語っているので、人を造り上げ、励まし、慰めます。（中略）預言する者は教会を造り上げます」という言葉である¹⁵。したがって「預言カフェ」の「預言者」たちは、人の徳を立て、励まし、慰める積極的かつ肯定的な言葉のみを語り、否定的なことは極力語らないように指導されている¹⁶。

また否定的なことが語られることがあっても、それは必ず肯定的な助言や励ましで結ばれる。例えば以下のような「預言」である。

「もしかしたら何か邪魔するような状況がちょっとあったりして、これでもつのだろうか、これで本当にいいのだろうか、何かそういったことをわたしは知っていますと主が言われています。何か今、あなたは今しっかりと、何か向こう側に進むこと、もう道ができていきますからねと主が言われています。だから何か自分でそれを乗り越えようと心配なさないでくださいと主が言われています」（2-12～14）

「何か狭いところに閉じ込められて、あなたの何か体勢が窮屈になっている、今のあなたのその状況に対し、わたしがあなたを助けようと主が言われます」（5-3）

「ああ、落とし穴のような（中略）その理不尽さの中にあなたが足をとらえられ、安

¹⁴ エレミヤ書 6: 14, 8: 11

¹⁵ 『コリントの信徒への手紙Ⅰ』 14: 3～4

¹⁶ 日本における預言者運動の指導者ロナルド・サーカーはこの点について次のように述べている。「預言の基本的な目的は、徳を高め、励まし、慰めることなのだということを何度も何度も繰り返して強調しています。なぜならば、人々は、預言が人を矯正し、戒め、裁くためなのだという、古い固定概念からなかなか離れられないからです」ロナルド・サーカー(2013)p. 89 その他 Hamon(1987), p. 77-78 (邦訳 p. 84-85) 吉田万代(2011) p. 81-82 も参照

全だと思ったそのところさえ、何かを踏み抜いたしまったと、あなたの右足、その足首にその痛さや辛さがある。くじいているそのところをわたしは癒そうと主が言われます」(6-3,4)

「ある時から大きな力に屈服しなければならなかったその辛さをあなたが通った、その時にもあなたが私を信じ続けた、その心をわたしは知っています。娘よ、大きく癒され、あなたが、なるほどと、この時のために自分はその道を通ったのだと、あなたが喜び、私の大切な娘であるとあなた自身が胸を張るように、わたしはあなたに喜びを見せると主が言われます」(7-6,7)

以上、「預言カフェ」の「預言」の実例に基づいて、それがハモンのいう「ロゴス」と「レーマ」の解釈に沿ったものであることを確認した。項を改めて、このような「預言」について批判的検討を行っていききたい。

4 批判的考察

4.1 新約聖書における「ロゴス」と「レーマ」の釈義

まず、ハモンの「預言」の聖書的根拠とされる「ロゴス」と「レーマ」について検証する。ハモンによれば「ロゴス」は永遠に天上にあり、天地が滅びても滅びることのないもの、創造的で必ず成就し、首尾一貫していて完全無欠なものを表しているという。しかし、新約聖書における「ロゴス」の用例はこのような主張を支持しない。

たしかに「ロゴス」にはハモンのいう永遠の御言葉、人となった神の言葉を表す以下の用例がある¹⁷。

ヨハネ 1: 1 「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。」

ヨハネ 1: 14 「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。」

1 ヨハネ 1: 1 「初めからあったもの、わたしたちが聞いたもの、目で見たもの、よく見て、手で触ったものを伝えます。すなわち、命の言について。」

¹⁷ 聖書の引用は新共同訳から、また「ロゴス」に相当する語を太字と下線で明示する。翻訳に「ロゴス」に相当する語が表れていない場合には、私訳を（ ）に付して示している。また引用した聖書の文意を明確にする必要がある場合は（ -筆者）として文意を補った。

黙示録 19: 13「血に染まった衣を身にまとい、その名は「神の言葉」と呼ばれた。」

これらはいずれも新約聖書中のヨハネ文書と呼ばれるテキストで、「ロゴス・キリスト論」として知られるものである。これが非常に有名なために「ロゴス」＝「神の永遠の御言葉」と思われがちだが、これらは新約聖書における「ロゴス」の用例の一部、ヨハネ文書に限定された用例に過ぎない¹⁸。

これに対して新約聖書における「ロゴス」の用例には、ハモンの分類では「レーマ」に相当するような、特定の状況下で特定の個人に語られた神の言葉に「ロゴス」を用いている多数の用例が存在する。例えば以下の箇所である。

マルコ 9: 10「彼らはこの言葉（山上の変貌の体験を口外することを禁じたイエスの言葉-筆者）を心に留めて、死者の中から復活するとはどういうことかと論じ合った。」

マタイ 15: 12「そのとき、弟子たちが近寄ってきて、『ファリサイ派の人々がお言葉を聞いて、つまづいたのをご存知ですか』と言った。」

マタイ 19: 11「イエスは言われた。『誰もがこの言葉（生涯独身-筆者）を受け入れるのではなく、恵まれたものだけである。』」

マタイ 19: 22「青年はこの言葉（持ち物を売り払い、貧しい人々に施せというイエスの言葉-筆者）を聞き、悲しみながら立ち去った。たくさんの財産を持っていたからである。」

¹⁸ これに近いその他の用例としては以下がある。マタイ 13: 19-23「だれでも御国の言葉を聞いて悟らなければ、悪い者が来て、心の中に蒔かれたものを奪い取る。（中略）石だらけのところに蒔かれたものとは御言葉を聞いて、すぐ喜んで受け入れるが、自分には根がないので、しばらくは続いても、御言葉のために艱難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまう人である。」マルコ 7: 13「こうして、あなたたちは、受け継いだ言い伝えで神の言葉を無にしている」ルカ 5: 1「イエスがゲネサレト湖畔に立っておられると、神の言葉を聞こうとして、群衆がその周りに押し寄せてきた。」ルカ 24: 19「ナザレのイエスのことです。この方は、神と民全体の前で、行いにも言葉にも力のある預言者でした。」ローマ 9: 6「神の言葉は決して効力を失ったわけではありません。」フィリピ 2: 16「命の言葉をしっかりと保つでしょう」1テモテ 1: 15「『キリスト・イエスは、罪人を救うために世に來られた』という言葉は真実であり、そのまま受け入れるに値します。」

テトス 2: 5「分別があり、貞潔で、家事にいそしみ、善良で、夫に従うようにさせることができます。これは、神の言葉がけがされることがないためです。」1ペトロ 1: 23「あなたがたは、朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変わることはない生きた言葉によって新たに生まれたのです。」黙示録 6: 9「子羊が第五の封印を開いたとき神の言葉と自分たちがたてた証のために、殺された人々の魂を、わたしは祭壇の下に見た。」使徒 8: 21「お前はこのこと（神の聖霊の賜物-筆者）に何のかわりもなければ、権利もない。お前の心が神の前に正しくないからだ。」1テモテ 5: 17「よく指導している長老たち、とくに御言葉と教えのために苦勞している長老たちは二倍の報酬を受けるにふさわしい、と考えるべきです。」

ただし1テモテ 1: 15、1ペトロ 1: 23 以外は、ハモンの分類での「レーマ」に相当するとも考えられる。

マタイ 22: 15 「それから、ファリサイ派の人々は出て行って、どのようにしてイエスの言葉じりをとらえて、罠にかけようかと相談した。」

マルコ 14: 39 「さらに、向こうへ行って、同じ言葉（私が願うことではなく、御心に適うことが行われますように-筆者）で祈られた。」

ルカ 1: 29 「マリアはこの言葉（受胎告知-筆者）に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。」

ルカ 4: 36 「人々は皆驚いて、たがいに言った。『この言葉はいったい何だろう。権威と力とをもって汚れた霊に命じると、出ていくとは。』」

ヨハネ 2: 22 「イエスが死者の中から復活されたとき、弟子たちは、イエスがこう言われたのを思い出し、聖書とイエスの語られた言葉とを信じた。」

ヨハネ 4: 50 「イエスは言われた。『帰りなさい。あなたの息子は生きる。』その人は、イエスの言われた言葉を信じて帰って行った。」

1テサロニケ 4: 15 「主の言葉に基づいて次のことを伝えます。主が来られる日まで生き残るわたしたちが、眠りについた人たちより先になることは決してありません。」

ルカ 4: 32 「人々はその教えに非常に驚いた。その言葉には権威があったからである。」

ヨハネ 4: 41 「そして、さらに多くの人々が、イエスの言葉を聞いて信じた。」

使徒 10: 44 「ペトロがこれらのことをなおも話し続けていると、御言葉を聞いている一同の上に聖霊が降った。」

さらには、ハモンの分類では「ロゴス」はおろか「レーマ」にも当てはまらない単なる人間の言説や流言（うわさ）に「ロゴス」が用いられている多数の用例がある。

マタイ 5: 32 「しかし、わたしは言うておく。不法な結婚（不貞という事由-直訳）でもないのに妻を離縁するものは誰でも、その女に姦通の罪を犯させることになる。」

マタイ 5: 37 「あなたがた（の言葉）は、「然り、然り」「否、否」と言いなさい。それ以上のことは、悪い者から出るのである。」

マタイ 12: 32 「人の子に言い逆らうものは赦される。しかし、聖霊に言い逆らう者は、この世でも後の世でも赦されることがない。」

マタイ 12: 36 「言うておくが、人は自分の話したつまらない言葉（レーマ）についてもすべて、裁きの日には責任を問われる。」

マタイ 12: 37 「あなたは、自分の言葉によって義とされ、また、自分の言葉によって罪あるものと

される。」

マタイ 18: 23 「そこで、天の国は次のようにたとえられる。ある王が、家来たちに貸した金の決済をしようとした」

マタイ 21: 24 「イエスはお答えになった。『では、わたしも一つ尋ねる。それに答えるなら、わたしも、何の権威によってこのようなことをするのか、あなたたちに言おう。』」

マタイ 22: 46 「これにはだれ一人、一言も言い返すことができず、その日からは、もはやあえて質問するものはなかった。」

マタイ 25: 19 「さて、かなりの日がたってから、僕たちの主人が帰って来て、彼らと清算を始めた。」

マルコ 5: 36 「イエスはその話をそばで聞いて、『恐れることはない。ただ信じなさい』と会堂長に言われた。」

マルコ 7: 29 「そこで、イエスは言われた。「それほど言うなら、よろしい。家に帰りなさい。悪霊はあなたの娘からもう出てしまった。」

ルカ 5: 15 「しかし、イエスのうわさはますます広まったので、大勢の群衆が、教えを聞いたり病気をいやしていただいたりするために、集まって来た。」

ルカ 16: 2 「そこで、主人は彼を呼びつけて言った。『お前について聞いていることがあるが、どうなのか。会計の報告を出しなさい。もう管理を任せておくわけにはいかない。』」

ヨハネ 4: 37 「そこで、『一人が種を蒔き、別の人が刈り入れる』ということわざのとおりになる。」

ヨハネ 4: 39 「さて、その町の多くのサマリア人は、『この方が、わたしの行ったことをすべて言い当てました』と証言した女の言葉によって、イエスを信じた。」

ヨハネ 19: 8 「ピラトは、この言葉（イエスの有罪を訴えるユダヤ人たちの言葉-筆者）を聞いてますます恐れ」

ヨハネ 21: 23 「それで、この弟子は死なないといううわさが兄弟たちの間に広まった。しかし、イエスは、彼は死なないと言われたのではない。ただ、『私の来る時まで彼が生きていることを、わたししが望んだとしても、あなたに何の関係があるか』と言われたのである。」

使徒 6: 5 「一同はこの提案（食事の世話係の選出-筆者）に賛成し、信仰と聖霊に満ちている人ステファノと、ほかにフィリポ、プロコロ、ニカノル、ティモン、パルメナ、アンティオキア出身の改宗者ニコラオを選んで」

使徒 10: 29 「それで、お招きを受けたとき、すぐ来たのです。お尋ねしますが、なぜ（いかなる理由で）招いてくださったのですか。」

使徒 11: 22 「このうわさ（異邦人の改宗-筆者）がエルサレムにある教会にも聞こえてきたので、教会はバルナバをアンティオキアへ行くように派遣した。」

使徒 15: 6 「そこで、使徒たちと長老たちは、この問題（異邦人に割礼を施すことの是非-筆者）について協議するために集まった。」

使徒 15: 27 「ユダとシラスを選んで派遣しますが、彼らは同じこと（使徒会議の決定-筆者）を口頭でも説明するでしょう」

使徒 15: 32 「ユダとシラスは預言する者でもあったので、いろいろと話をして兄弟を励まし力づけ」

使徒 18: 14 「ガリオンはユダヤ人に向かっていった。『これが不正な行為とか悪質な犯罪とか（が理由）であるならば、当然諸君の訴えを受理するが』」

使徒 19: 38 （告訴）「デメトリオと仲間の職人たちが、誰かを訴え出たいのなら、決められた日に法廷は開かれるし、地方総督もいることだから、相手を訴え出なさい。」

使徒 19: 40 「本日のこの事態に関して、我々は暴動の罪に問われるおそれがある。この無秩序な集会のことで、何一つ弁解する理由はないからだ。」

使徒 20: 2 「この地方を巡り歩き、言葉を尽くして人々を励ましながら、ギリシャに来て」

ローマ 14: 12 「それで、わたしたちは一人一人、自分のことについて神に申し述べることになるのです。」

1 コリ 1: 17 「なぜなら、キリストが私を遣わされたのは、洗礼を授けるためではなく、福音を告げ知らせるためであり、しかも、キリストの十字架がむなしいものになってしまわぬように、言葉の知恵によらないで告げ知らせるためだからです。」

2 コリ 11: 6 「たとえ、話し振りは素人でも、知識はそうではない」

エフェソ 5: 6 「むなしい言葉に惑わされてはなりません」

フィリピ 4: 15 「わたしが福音の宣教の初めにマケドニア州を出たとき、もののやり取りでわたしたちの働きに参加した教会はあなたがたのほかの一つもありませんでした。」

フィリピ 4: 17 「贈り物を当てにして言うわけではありません。むしろ、あなた方の益となる豊かな実を望んでいるのです。」

コロサイ 3: 17 「そして、何を話すにせよ、行うにせよ、すべてを主イエスの名によって行い、イエスによって、父である神に感謝しなさい。」

ヘブル 4: 13 「神の御前では隠れた被造物は一つもなく、すべてのものが神の目には裸であり、さらけ出されているのです。この神に対して、わたしたちは自分のことを申し述べねばなりません。」

1 ペトロ 3: 15 「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなた方の抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」

1 ペトロ 4: 5 「彼らは、生きている者と死んだ者とを裁こうとしておられる方に、申し開きをしなければなりません。」

次に「レーマ」の用例を検討する。

以下のような用例はハモンの分類でいう特定の状況下で特定の個人に対して語られた神の言葉に対する「レーマ」の用例としてよいであろう。

ルカ 1: 37 「神にできないことは何一つない。」

ルカ 1: 65 「近所の人々は皆恐れを感じた。そして、このことすべてが、ユダヤの山里中で話題になった。」

ルカ 2: 15 「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」

ルカ 2: 17 「その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使たちが話してくれたこと（救い主の誕生とそのしるし-筆者）を人々に知らせた」

ルカ 2: 19 「マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。」

ルカ 2: 50 「しかし、両親にはイエスの言葉の意味が分からなかった」

ルカ 2: 51 「それから、イエスは一緒に下って行き、ナザレに帰り、両親に仕えてお暮しになった。母はこれらのことをすべて心に納めていた。」

ヨハネ 5: 47 「しかし、モーセの書いたことを信じないのであれば、どうして私が語ることを信じることができようか。」

使徒 2: 14 「私（ペトロ-筆者）の言葉に耳を傾けてください。」

使徒 10: 36～37 「神がイエス・キリストによって（中略）平和を告げ知らせ、イスラエルの子らに送ってくださった御言葉（この原語はロゴス）を、あなたがたはご存知でしょう。ヨハネが洗礼を宣べ伝えた後に、ガリラヤから始まってユダヤ全土に起きた出来事です。」

使徒 13: 42 「パウロとバルナバが会堂を出るとき、人々は次の安息日にも同じことを話してくれるようにと頼んだ。」

使徒 28: 25 「彼らが互いに意見が一致しないまま、立ち去ろうとした時、パウロはひと言次のように言った。（この後、ユダヤ人たちが福音を聞いても受け入れないので異邦人に向かうということが語られる-筆者）」

ローマ 10: 8 「では、何とされているのだろうか。『御言葉はあなたの近くにあり、あなたの口、あなたの心にある。』これは、わたしたちが宣べ伝えている信仰の言葉なのです。」

ローマ 10: 17 「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。」

エフェソ 6: 17 「救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」

ユダ 17 「愛する人たち、わたしたちの主イエス・キリストの使徒たちが前もって語った言葉を思い

出しなさい。」

しかし、新約聖書にはハモンの分類では「ロゴス」（天上にある永遠不変の神の言葉）に相当するような言葉に「レーマ」が使われている以下の例も存在する。

マルコ 9: 32 「弟子たちはこの言葉（9: 31 「人の子は、人々の手に引き渡され、殺される。殺されて三日の後に復活する」）が分からなかったが、怖くて尋ねられなかった。」

ヨハネ 6: 68 「主よ、わたしたちは誰のところへ行きましょうか。あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。」

使徒 5: 32 「私たちはこの事実（イエスの死と復活と昇天-筆者）の証人であり、また、神が御自分に従う人々にお与えになった聖霊も、このことを証しておられます。」

2 コリ 12: 4 「彼は樂園にまで引き上げられ、人が口にするのを許されない、言い表しえない言葉を耳にしたのです。」

ヘブル 1: 3 「御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって、万物を御自分の力ある言葉によって支えておられます」

ヘブル 12: 19 「ラッパの音、さらに、来た人々がこれ以上語ってもらいたくないと願ったような言葉の声に近づいたではありません。」

さらにハモンの分類では「ロゴス」にも「レーマ」にも相当しないような、単なる人間の言葉に「レーマ」が使われている以下のような用例もある。

マタイ 12: 36 「人は自分の話したつまらない言葉についてもすべて、裁きの日には責任を問われる」

マタイ 18: 16 「聞き入れなければ、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。すべてのことが、二人または三人の証人の口によって確定されるようになるためである。」

使徒 6: 13 「この男は、この聖なる場所と律法をけなして、一向にやめようとしません。」

2 コリ 13: 1 「すべてのことは、二人ないし三人の証人の口によって確定されるべきです。」

以上、新約聖書における「ロゴス」と「レーマ」の用例検討から明らかなように、「ロゴス」は天上にある永遠不変の神の言葉を、「レーマ」は特定の状況下で特定の個人に語られた神の言葉を表すというハモンの主張は、聖書的には全く裏付けられない。ハモンは自らの預言運動において、キリスト教の基本信条（使徒信条、ニカイア・コンスタンチノー

ポリス信条、カルケドン信条)に拘束されることなく、さまざまなメッセージを神の言葉として語るために、すなわち「今日でも神様は個人的に語られる」¹⁹ということを神学的に正当化するために架空の論理を案出したのである。それがハモンの「ロゴス」「レーマ」類型論である²⁰。

4.2 「新使徒運動」の政治性

「預言カフェ」の活動がアメリカにおける「預言」回復運動の創設者であるビル・ハモンをルーツに持つことは最初に述べたが、ハモン自身は自らの運動をさらに大きなキリスト教復興運動である「新使徒運動」の中で展開している。「新使徒運動」とは1998年に米国フラー神学校の教授ピーター・ワグナーが命名したもので、1900年代の初頭からキリスト教の伝統的教派教会の衰退と反比例するかたちで、世界の各地に起こってきたさまざまなキリスト教の復興運動を指す。その展開の仕方はさまざまで、伝統的な教派教会の内部運動という形をとることもあれば、それらから分離して、緩やかなネットワークとして展開する場合もあるといわれる²¹。

前項までに考察した「預言カフェ」の「預言」は、キリスト教の外部にいる人を主な対象としているので、少なくとも筆者が収録した「預言」には「新使徒運動」の直接的な影響は認められない。しかし、ハモンや日本の「預言」運動を指導しているロナルド・サーカーには「新使徒運動」の影響が認められるので、この運動の持つ問題点にも触れておきたい。

それはこの運動が持つ顕著な政治性である。たとえば「新使徒運動」の著名な「預言者」ランス・ウォルヌーは米国のトランプ大統領就任時にイザヤ書45章を啓示的に示され、トランプにおいて「共通の恵み」(common grace は改革派神学の概念で「救済の恩寵」saving grace と異なり、信仰の有無にかかわらず神から与えられる恵みのこと)の働き、具体的には、無秩序の力を押さえ、人の心に美德と正義を呼び起こす働きを見るという。さらにトランプについて、旧約時代のイスラエルの民をバビロン捕囚から解放したペル

¹⁹ Hamon (1987), p. 29 (邦訳 p. 19)

²⁰ ハモンは「ロゴス」と「レーマ」の関係について、「レーマは、常にロゴスに依存します」「レーマは(中略)ロゴスに従属する言葉です」と述べている。Hamon (1987), p. 52 (邦訳 p. 51, 52) しかし、日本における「預言者」の養成は、「レーマ」を語るためにそれが従属する「ロゴス」を研究する(ヘブライ語やギリシャ語を学ぶなど)よりも、むしろ聖書に拘束されずに、自由に「預言」できる点に重点が置かれているように思われる。ロナルド・サーカー(2013)における「預言を活性化させる」訓練についての以下の箇所を参照。p. 43-46, 76 またウィリアム・ウッドは、「新使徒運動」における聖書の軽視を指摘している。ウィリアム・ウッド(2018) p. 13-14, 47-49

²¹ Wagner, Peter (ed.), "The New Apostolic Churches" California, USA 1998. p. 19 (ピーター・ワグナー『使徒的教会の到来』マルコーシュ・パブリケーション 2000年 p. 20)

シヤのキュロス王と同じ働きをする神の器だという²²。

このような「新使徒運動」の持つ政治的主張は、ハモンにおいては、第二次世界大戦後1948年のイスラエル建国を、世の終わり（終末）が間近に迫っていることを示す最大のしるしと理解するという形で表れている。彼によれば「預言者の務めと預言者たちの群れの回復」もこの終末のしるしとの関連で重要である²³。

さらにハモンのアラブ世界の理解もこの延長線上にある。旧約聖書におけるイスラエル民族の族長アブラハムの二人の息子、イシュマエルとイサク、イサクは神の約束によって生まれ、イスラエル民族とイエス・キリストもイサクの子孫であるが、イシュマエルは人間的な手段により生まれた子であり、神の約束によるものではない²⁴。アラブ人はこのイシュマエルの子孫である。そして、アブラハムの時代にもイシュマエルがイサクを苦しめたように、現在もイシュマエルの子孫（アラブ人）は、イサクの子孫（キリスト教世界）を苦しめているとする²⁵。

しかし、現在の国際社会においてイシュマエルの子孫としての「アラブ人」が一枚岩で存在しているわけではない。エジプト人、イラク人、レバノン人、ヨルダン人、モロッコ人、クウェート人、パレスチナ人として歴史的にも政治的にもまったく異なる課題状況におかれて存在している²⁶。同様にキリスト教世界はもちろんのこと、イスラエル、ユダヤ社会も決して一枚岩ではない。同じユダヤ人といっても、モロッコ系、ロシア系、イラク系、エチオピア系と、肌の色も文化的背景も全く違う²⁷。こうした多様な状況を見えなくする「新使徒運動」が与える政治的弊害は計り知れないものがある。「預言カフェ」で個人的に「預言」を受けている限りは、まったく感知できないが、この宗教運動の背景にはこのような政治性があることは忘れてはならないだろう。

4.3 日本の神道についての理解と批判

日本における「預言」運動の指導者ロナルド・サーカーによれば、日本においてキリスト教の伝道が進まないのは、明治政府が出したキリスト教禁教令の高札が、正式な手続き

²² Lance Wallnau “God’s Chaos Candidate, Donald J. Trump and The American Unraveling”, 2016. p. 64

²³ Hamon (1987), p. 43 (邦訳 p. 38) ランス・ウォルヌーも近著においてイスラエルの建国（1948年）、第三次中東戦争におけるイスラエルの勝利（1967年）をルカ福音書 21: 24 における「異邦人の時代の完了」と結びつけて終末のしるしと解釈している。Lance Wallnau, “God’s Chaos Code, The Shocking Blueprint that Reveals 5 Keys to the Destiny of Nations”, 2020. p. 186.

²⁴ 創世記 16: 1 以下、ガラテヤの信徒への手紙 4: 21 以下参照

²⁵ Hamon (1987), p. 216 (邦訳 p. 248)

²⁶ シグロ編『エドワード・サイード OUT OF PLACE』みすず書房 2006年 p. 207

²⁷ 同上書 p. 216

を経て撤回されなかったため、霊的世界ではいまだにこれが厳然と施行されていること²⁸、さらに日本の神道には「オカルトの霊」すなわち「太陽の女神、日本名、天照大神」が働いているからだという²⁹。サーカーの日本の宗教文化の理解は、靖国神社の祭神を天照大神とするなど不正確なものである³⁰。また天照大神を祭神としない出雲大社、その他の教派神道の存在といった神道文化の多様性をまったく無視して「オカルトの霊」で一括りにし「偶像礼拝」として退ける態度は、前項で批判したこの運動のアラブ世界理解と軌を一にするものである。「預言カフェ」の背後には、このような思想が潜んでいることも注意すべきである³¹。

補遺「預言」記録

以下は筆者及び協力者（3名）が、2008年から2020年までの間に「預言カフェ」で受けた「預言」9つの記録である。「預言」はその場で録音されたものを文字に起こし、一文ごとに通し番号を付した。また各記録の冒頭に「預言」を受けた年月日と受けた人の年齢及び性別を記した。

1 2008年9月10日 50代男性

- 1-1 主が言われます。
- 1-2 わが愛する息子よ、私はあなたを良いものとして造りました（創世記1:31）よ。
- 1-3 そして、あなたは指し示す者です。
- 1-4 よきアドバイザー、客観的にもものを見て、どのようにしたらよいのか、そのように指導する者としてあなたを造りましたよと主は言われます。
- 1-5 そして、あなたは遠くを見て、そこに若い人を送り出す者として、あなたを造りましたよと主は言われます。
- 1-6 ですから、あなたはその良いものを見てください。
- 1-7 そして、客観的であってください。
- 1-8 そして、人々を励ます、そのような者ですよと、主は言われます。
- 1-9 疲れた時、あなたの所によってきて、あなたに慰められる、オアシスのような存在として、あなたを用いていきますと、主は言われています。

²⁸ ロナルド・サーカー『山羊の国から羊の国へー神道の裏に潜む悪霊と対決するための祈りのガイド』クリスチャンインターナショナルアジア2001年 p.7

²⁹ 同上書 p.14

³⁰ 同上書 p.47

³¹ このような思想が「新使徒運動」に広く浸透していることについては、この運動の主唱者であるピーター・ワグナーの以下の書を参照。ピーター・ワグナー編著『地域を支配する霊』暁書房1993年、ピーター・ワグナー『天の女王との戦い』マルコーシュ・パブリケーション1999年

1-10 あなたの言葉が、あなたの励ましが、人々を受け入れる心が、それによって慰められ、休みを受け、安らぎを受けて、ほんとに元気になって帰っていく、そのようなものですからと主は言われます。

1-11 そして、私もあなたも、あなた自身その体を使って入り込んでいくフィールドを探していくと主は言われます。

1-12 それは本当に身近にある、遠いところではないかもしれない。

1-13 しかし、あなたがそこで動くことによって、人々が立ち上がっていく、元気を失った人が、またもう一度立ち上がって、元気になって、励まされて出て行くように、私は準備していますよと主は言われます。

1-14 ですから私はあなたを兄のような、父親のような存在として、人々を育てるような存在として導いていきますからと主は言われます。

1-15 そして、私はあなたの家庭をも、顧みていますよと主は言われます。

1-16 あなたは、自分の家庭にはなかなか力が注げない、そのように思っているかもしれません。

1-17 しかし、私は、あなたの家庭をもしっかりと顧みることができるよう、そのような時間をも与えていますからと主は言われます。

1-18 ですから、あなたは、周りの人が一生懸命働いているのに、自分は家庭のことを見てはられない、そのように思っていたかもしれませんが、ですけれども心配しないで下さい。

1-19 あなたのやったことはすでに、伝わっていますからと主は言われます。

1-20 ですから、自分の家庭の為に時間を費やすこと、家庭を顧みること、家庭に帰ることに罪悪感を感じないで下さいと、主は言われます。

1-21 なぜなら、私はあなたを家庭においてもよき管理者として、父親として置いているからですと主は言われます。

1-22 ですから、あなたは、時間を使い、言葉を使って、よき管理をする、そして、自分が伝えたいことを伝えていく、そのような時間も作ってくださいと主は言われます。

2 2015年5月8日 50代男性 (3分52秒)

2-1 主が言われます。

2-2 愛するわが息子よ、息子よ、私はあなたのことを愛し、そしていま私はあなたを引き付けていきますと主は言われます。

2-3 引き付けてきましたと主は言われます。

2-4 そして、あなたに対して何か奇跡、本当にあなた自身が私の声をよく聞いていますよと主が言われています。

2-5 ちょっとご自分のことを癖のあるとか、ちょっと屈折というのかな、くの字っていうんですか、そ

うという感じがするんですけども、私はそのようなあなた自身のことを見て、そのようなあなた自身を愛していることを喜んでますよと主が言われます。

2-6 それをあなたが喜んでるというのかな、自分らしさとか自分を楽しむそのコツをあなたが心得ていて、そういった一つ一つの個性を表す事柄、それはほんとに奇をてらっていると思うかもしれませんがけれども、何か奇抜なアイデアとか、また季節によってとか、いろいろと変えてみたりとか、あなたのいろいろと変えられてきたこと、それをわたしは知っていますと主が言われています。

2-7 今、あなたが笑う時に入ってきましたと主が言われています。

2-8 何かわけがわからないけれども笑いたくなる、何か神に触れられていきますと主が言われています。

2-9 神があなたに触れていきますよ。

2-10 それはあなたに新しい体験をもたらすでしょうと主が言われています。

2-11 そして、あなたが何か本当に与えられていく、働きが何か起こっていきますと主が言われています。

2-12 何かもう与えられているかもしれませんがけれども、もしかしたら何か邪魔するような状況がちょっとあったりして、これでもつのだろうか、これで本当にいいのだろうか、何かそういったことをわたしは知っていますと主が言われています。

2-13 何か今、あなたは今しっかりと、何か向こう側に進むこと、もう道ができていきますからねと主が言われています。

2-14 だから何か自分でそれを乗り越えようと心配なさないでくださいと主が言われています。

2-15 何かあなたがそのことを心配するものではなく、かえって脇に道ができる、そのことを知ってくださいと主が言われています。

2-16 何かあなたがそこで振り回されてしまうものではなく、脇の道をあなたが喜びながら進んでいくでしょうと主が言われています。

2-17 もしかしたら何か他の、何か若い世代とか、新しい世代とか、そういった人々が引っぱり張っていくとか、そういったこともあるかもしれませんがよと主が言われています。

2-18 それはほんとに楽しいですよと主が言われています。

2-19 あなたは若い人たちが大好きだからですよと主が言われています。

2-20 そして、ほんとにその中であって、何か状況が広がっていきますよと主が言われています。

2-21 何か現場の雰囲気であっても、何かあなたがほんとにいろいろと、若い世代でも、自分と同じ世代でも、その中であってあなたが愛するので、良い結果が出来上がっていくこと、そのようなことをますます見ていきますよと主が言われています。

3 2015年6月2日 50代男性 (3分45秒)

3-1 主が言われます。

3-2 わが愛する息子よ、私はあなたを愛しています。

3-3 あなたがしっかりと足取りで登ってきた階段、それはしっかりと築かれていることを知りなさいと主が言われています。

3-4 もうあまりにも高く上がってきたので、あなたのはじめをもう忘れてしまっているかもしれないけれども、今はじめのところに思いを向ける時ですと主が言われています。

3-5 新しい心、新しい愛を、「初めの愛を」という言葉が聖書にあるのですが（黙示録2:4）、その初めの愛を取り戻す、そして初めの情熱を取り戻す、その時にああ、自分にもこういう時があった、自分はこういう思いを持ち続けてくることができた、今もその思いを持っているということをあなたは確認して喜ぶでしょうと主は言われています。

3-6 その少年のような感性をもってますます状況を見ていくでしょうと主が言われています。

3-7 その凝り固まって、これはこうだ、あれはこうだと決まっているところでは我慢できない人ですねと主は言われています。

3-8 ですからそこに新しい風を送る者として、わたしはあなたに思いを与えていますと主は言われています。

3-9 あなたは無理やりそこを壊そうとするのではなく、それをどのようにやり替えたら、築き直したら壁が崩れないかとか、建物がますます補強されるとか、そういう工夫ができる人ですよと主が言われています。

3-10 その思いにおいて、そこにわたしは新しい材料を用意していますよと主が言われています。

3-11 以前使ってこれが失敗したから、これは無理だとあなたが思わないで、以前持っていたものをもう一度持ち出して、そこに新しいものを加えて築き上げていく、そのことをやっていくでしょうと主が言われています。

3-12 ですから人と人とのつながりにおいてもそのことを用いてくださいと主が言われています。

3-13 以前、離れてしまった人たち、以前、意見が分かれて諦めた人たちが、またもう一度戻ってきて、そしてそこに新しい風が起こってくる、そのことを見なさいと主が言われています。

3-14 新しい2015年のはじめにあなたが決心したこと、そのことをやり続けることができるように私は情熱をあげると主が言われています。

3-15 ですから、明日は何があるのだろうと、あなたが思うときに、あなたの周りの人たちもワクワクしていきますよと主が言われています。

3-16 一人ではなくて、あなたが風を起こすものとして、竜巻の中心のようなものとしていることを知っ

てくださいと主が言われています。

3-17 あなたの手は大きな手ですね。

3-18 あなたの手は長い手ですねと主が言われています。

3-19 それは私があなたにそのように造りました。

3-20 それは本当に多くの人たちを巻き込んで、抱き込んで一つのところに動かしていく、そのようなものですと主が言われています。

3-21 あなたの心の温かさをますます外に発揮するために、あなたの言葉を用いていきますと主が言われています。

3-22 語らなければわからないことがある、そのために語ることを躊躇してはいけないと主が言われています。

3-23 あなたを愛しています。

3-24 あなたをますます強めていきますと主が言われています。

3-25 今まで築き上げてきたこと、今まで学んできたこと、培ってきたことが、本当に外に力となって現されることを期待してくださいと主が言われています。

3-26 あなたがやりたかったことを思い出さないと主が言われています。

3-27 あなたをわたしは忘れていませんよ、神があなたを見ているということをしっかりと受け取ってくださいと主が言われています。

4 2015年6月2日 40代女性 (2分47秒)

4-1 主が言われています。

4-2 わが愛する娘よ、私はあなたを愛しています。

4-3 あなたがあなたの人生を本当に楽しんで、一生懸命頑張ってきたこと、そのことをわたしはすべて見ていると主は言われます。

4-4 一つも逃していない、一つもあなたがいい加減じゃなくて、本当に情熱をもって向かい合ってきたことが、あなたを成長させてきたことを、とても喜んでますよと主は言われます。

4-5 とても楽しい人ですねと、主が言われています。

4-6 それを私は喜んでますよと主が言われています。

4-7 どんなことでも、どんなことに対してもいろんな受け取り方があるんですけども、あなたが思いをそこにおいて楽しもうと、またよいものを受け取ろうと、よいものを見ようと選び取ろうとしているその姿勢を、わたしがあなたにあげた心ですよと主が言われています。

4-8 そのことをますますあなたの後に続く人たちにあなたが教えてきたことをあなたが喜ぶでしょうと

主が言われています。

4-9 そして、これからもますますあなたの自由さを楽しんでほしいのですと主が言われています。

4-10 こういう場面では、またこういう状況の中では自分はこうしなければいけないと教えられても、教えられたとおりにしない人ですよと主が言われています。

4-11 その自由さをあなたが本当にもっていることは、宝物ですよと主が言われています。

4-12 そしてそのことによってあなたの周りの人たちが、助けられている、そして、心を解放されていることをわたしは喜んでいきますと主が言われています。

4-13 ますますあなたの道をわたしは楽しむことができるように、ただ平坦なだけではなく、でこぼこの道を楽しむことができるように造っていますと主が言われています。

4-14 その時にあなたの心が、本当に鍛えられる、鍛えられてきた、そのことがあなたを強くしてきたことをわたしは見ていきますと主が言われています。

4-15 どんなことをもユーモアに換えて、あなたが表現することができる、そのことによって、それをよいものとして人々が受け取ることができる、そのことを見ていきますよと主が言われています。

4-16 ますますあなたの領域を広げていきます。

4-17 たくさんの種を蒔いてきたから、たくさんの花が咲いていますよ。

4-18 たくさんの実が実っていますよ。

4-19 しかし、ますますあなたは収穫を得ながら新しい種を蒔いていく者として、わたしはあなたに領域を広げていきますと主が言われています。

4-20 楽しんでください。

4-21 そして自由な心を与えてくださいと主が言われています。

4-22 あなたの周りの人たちに教えるというよりも、分かち合う、そのことが始まっていくでしょうと主が言われています。

4-23 あなたを愛しています。

4-24 あなたを見守っている神がここにいます。

4-25 あなたを喜んでいる神がここにいますよと主が言われています。

5 2015年7月28日 50代男性 (3分06秒)

5-1 主が言われます。

5-2 私の愛する息子よ、私はあなたを喜んでいきますと主は言われます。

5-3 何か狭いところに閉じ込められて、あなたの何か体勢が窮屈になっている、今のあなたのその状況に対し、わたしがあなたを助けようと主が言われます。

5-4 その狭いところを通り抜けるそのことは、とても困難なことかもしれない、けれどもわたしにあってあなたが願い、そして求めるものであるからこそ、わたしがあなたの場所を作ることができると主が言われます。

5-5 まあ、何かお家の建て増しとか、そのリモデリングとか、住宅のことかもしれないし、事務所のこともかもしれないし、人生の状況のことかもしれないけれども、でも息子よ、変化の中にあって、あなたができないとそう思うことを恥じることはないのですと主が言われます。

5-6 私はあなたを愛し、あなたをととても大切に思っています。

5-7 あなたの喜びが私の喜びである。

5-8 そのような私とあなたの関係が、ますますはっきりとあなたの心に落ちるように、わたしはあなたに道を作りますと主が言われます。

5-9 息子よ、たいへんに努力の人です。

5-10 人の二倍も三倍も何かに対し、心を傾け、また、ある時は経済も投入するかもしれない。

5-11 あなたのその頑張りをおわたしは見て、あなたが私の素晴らしさを喜び、またあなた自身のやってきたことに結果が出るように、わたしはあなたを安心させると主は言われます。

5-12 「ああ、これが、」と、海の砂を拾い集め、その一粒一粒の中から金を探すような、あなたの営みが、「ああ、ここだ、宝はここにあった」と、そのように喜ぶ、そのような時をおわたしはあなたに約束しようと主は言われます。

5-13 息子よ、この2015年の後半ですけれども、その大きな変化、揺り動かしの中で、本当のものと、本当ではないのものと、あなたが見分けたいと願うからこと、私の愛を、私の喜びを、わたしの光をあなたが受け取り、今までは間からこぼしてしまったと思うかもしれないけれども、そのこぼしたもの以上に、もっともっと良いものをあなたに、あなたが受け取れるように私はあなたに示そうと主が言われます。

5-14 期待しなさい。また歌いなさい。あなたの手足が自由になるように、ますます喜びの人となりなさいと主が言われます。

6 2015年7月28日 70代女性 (3分34秒)

6-1 主が言われます。

6-2 私の愛する娘よ、わたしはあなたを喜んでいますと主が言われます。

6-3 ああ、落とし穴のような、また見えなかったけれど、その理不尽さの中にあなたが足をとらえられ、安全だと思ったそのところさえ、何かを踏み抜いたしまったと、あなたの右足、その足首にその痛さや辛さがある。

6-4 くじいているそのところをおわたしは癒そうと主が言われます。

- 6-5 娘よ、わたしはあなたをあなたとしてこの世に生み出し、あなたにとって必要なものをわたしがあなたに用意しますと主が言われます。
- 6-6 今までこうだったとあなたが、賢くまた開拓者のように切り開かなければならなかったあなたの人生に私はともにいましたと主が言われます。
- 6-7 私はあなたが人々を支えたいと思った、慰め励ましたいと思った、あなたの愛をわたしは知っていますと主が言われます。
- 6-8 恐れることなく勇敢に戦ったあなたは、それでも孤独を感じ、痛みを受け取った。
- 6-9 今私はあなたの傷をいやすと主が言われます。
- 6-10 わたしはあなたを大切に、娘として傷のないものとして、喜びの娘として私はあなたを呼んでいませんと主が言われます。
- 6-11 娘よ、日々の中に新しさがあること、それをあなたは受け取ると主が言われます。
- 6-12 好奇心が旺盛、そしてまた人々を本当に愛の目で見ることができ、また言葉を選びゆっくりと語る者として、わたしはあなたに新しい場所を任せると主が言われます。
- 6-13 いままでがこうだったからとか、あなたは決してパターンに陥らず、新しさと変化の中でより良いものを受け取ろうとしています。
- 6-14 娘よ、わたしが真理です（ヨハネ福音書 14: 6）。
- 6-15 娘よ、ますます私とあなたの絆が深まるその時ですよと主が言われます。
- 6-16 愛するものよ、愛する娘よ、祈りの言葉を、求める心を今ますます私に捧げ、あなたが一回捧げたと、そのように思ったあなたの人生を、今私に捧げなさいと主が言われます。
- 6-17 愛する娘よ、あなたが求めるその大きさを、光を、また強さを、また守りを、また導きを、またこれからに対してあなたの召しを使命を、わたしはあなたに受け取らせようと主が言われます。
- 6-18 恐れるよりも、喜びを得て、またその確信を持たずとも、あなたの信じる心はわたしにあると主が言われます。
- 6-19 そのあなたと私の関係が、個人的にますます近づき、わたしはあなたに新しさを増し加えると主が言われます。
- 6-20 あなたのジャンプ力をわたしは強め、そのいろいろな方向に対し、迷わず進んでいけるように、わたしはあなたの日々一步一步私の導きをあなたに示すと主が言われます。

7 2015年7月28日 70代女性 (3分16秒)

- 7-1 主が言われます。
- 7-2 私の愛する娘よ、わたしはあなたを喜んでいと主が言われます。

7-3 娘よ、わたしはあなたの生まれる前から、わたしはあなたを計画し（エレミヤ 1:5）、わたしはあなたを喜んでこの時のために私はあなたを生み出したと主が言われます。

7-4 もう年を取ったと、何かそのことがあなたの心の中に、多くを占めているのならば、そのことをもわたしは預かりあなたをますます生き生きと元気にさせますと主が言われます。

7-5 物事に対し経験を積んでいくことは素晴らしいことです。わたしはあなたのその一步一步の忍耐を祝福しますと主が言われます。

7-6 人々のために何かをやらなければ自分のいのちが危うかったと、何かもしかしたら、喜んで自由意志をもったあなたでしたけれども、ある時から大きな力に屈服しなければならなかったその辛さをあなたが通った、その時にもあなたが私を信じ続けた、その心をわたしは知っています。

7-7 娘よ、大きく癒され、あなたが、なるほどと、この時のために自分はその道を通ったのだと、あなたが喜び、私の大切な娘であるとあなた自身が胸を張るように、わたしはあなたに喜びを見せると主が言われます。

7-8 何か知らなかったけれど、自分自身の兄弟や親せきの人たちが、あなたを頼ってくるようになると主が言われます。

7-9 自分はもしかしたらもうとっくに縁を切ったと思ったかもしれない。

7-10 けれども娘よ、私は一人一人を愛し、またよい回復の時を、また、その喜びを共有できるような、新しい関係をわたしはあなたに見せようと主が言われます。

7-11 娘よ、変化の中に本当に真理をあなたが見て、その今までの長い歩みがまだ準備段階で、自分の人生はもっとこれから素晴らしく変化するのだと、あなた自身が私の約束を受け取れるように、わたしはあなたの心に語り続けると主が言われます。

7-12 娘よ、わたしはあなたの日常を守っていきます。

7-13 予定やスケジュール、もしかしたら緩やかなスケジュールしか作れないと思っているかもしれないけれども、娘よ、そのあなたの新しさへの扉があること、約束ではなく、あなたの自らの意思の中で計画を作り、行動できるように私は日々新しくしていくと主が言われます。

8 2015年8月11日 50代男性 (2分47秒)

8-1 主が言われます。

8-2 わが愛する息子よ、わたしはあなたを愛しています。

8-3 あなたのその感動する心、そして繊細な感受性、そのことがますますあなたにあることをあなた自身が驚いていくでしょうと主が言われます。

8-4 そのことを通してのクリエイティブな力、作品、また物事を作り上げていく、そのことがますます

広がっていくでしょうと主が言われています。

8-5 ですから両手を広げて私からのプレゼントを受け取りなさいと主が言われています。

8-6 私はあなたに大きなプレゼントを用意しています。

8-7 それは心ですと主が言われています。

8-8 愛です。

8-9 その愛と心をもってあなたが取り組んでいくことが、今まで人が振り向かなかったものにあなたが振り向かせていく、興味を持たせていく、そしてそこに新しい力が現れていく、そのことを見ていくでしょうと主が言われています。

8-10 今形が見えないとしても、あなたが構想を練って、その一つ一つのあなたの思いを形にしていく、そのことをわたしは助けていきます。私が助けるというよりも、あなたとともに作り上げていきたいのですと主が言われています。

8-11 ですからあなたがいなくてはだめなのです。

8-12 あなたがいる必要があります。

8-13 あなたしかできないこと、そのところにあなたを置いているからと主が言われています。

8-14 ですから発想とか考え方において、ますますあなたを新しくしていきます。

8-15 この常識的に考えたら無理だと思うこと、また常識的に考えたらこれを選ぶべきだと思うこと、そのことからあなたが自由にされて、新しいことを生み出していく、そのことをしていきましょうと主が言われています。

8-16 まだまだあなたでしかやれないことがあなたの前に連なっていく。

8-17 ですから休んでいる暇はないですよと主が言われています。

8-18 立ち上がってください。

8-19 そしてあなたが手を差し出すときに、あなたの手を握る人たちがいる。

8-20 私があなたを支えていますと主が言われています。

8-21 祝福されること、祝福されることを願うことは遠慮しないでください。

8-22 その祝福、神の恵みの中に浸って、それを広げていく、そのために私はあなたを呼びましたと主は言われています。

8-23 この世の中の状況が本当に難しく難しく考えられていく。

8-24 その中にあなたがシンプルな思いをもって、シンプルな言葉で、そこを変えていく、状況を変えていくことが始まっていくでしょうと主が言われています。

8-25 私はあなたを愛しています。

8-26 今、想像力をあなたに上げると主が言われています。

8-27 それは夢を見ること、期待すること、そのことがあなたの個性ですからと主が言われています。

8-28 その個性を思い出してください。そして取り戻してくださいと主が言われています。

8-29 あなたを愛しています。

9 2020年1月28日 60代男性 (4分13秒)

9-1 主が言われます。

9-2 わが愛する息子よ、私はあなたを愛しています。

9-3 何か込み入った、乱立する木がいっぱい立っていて、細い針金のような、入っていくのも難しそう
なところにあなたが入って行って、どうやったらこれを切り抜かれるだろうか、その道はない、ただラ
ンダムに状況が目の前をふさいでいるだけだ、そのように思うかもしれない。

9-4 しかし、抜ける方法はあると主は言われます。

9-5 何か遠回りして、この難しい壁を大きく遠回りして行かねばとてもここは越えることができないと
あなたは感じるかもしれない。

9-6 しかし、わたしは、この厳しい、狭い極小の隙間さえあなたが乗り越えることができるように知恵
と勇気を与えますと主は言われます。

9-7 しかし、あなたが通って行った後にはちゃんと道筋ができる。他の人もそこを通ることができるよ
うになると主は言われます。

9-8 新しいものを造るということ、パイオニアとして挑戦するということは大変な勇気を要するもので
す。

9-9 その中であってあなたが何の方法も手立ても知恵も確信もないとしても、ただ進む一步一步のゆえ
に、それをだんだん抜けていけるというそこはかかない希望を頼りに進んでいく。

9-10 しかし、その結果は、あなたがここを通過するだけでなく、ほかの人たちもそこを進んでいくため
の道を作る者となると主は言われます。

9-11 それは大げさと感じるかもしれない。

9-12 あなたが何の目的で何をしているのか、すべてのことを知っていなくてもよい。

9-13 私がすべてのことを知ってあなたを導く。

9-14 あなたの人生の中に私が生きて働き、あなたとあなたの家族の上に喜びを与える。

9-15 何か対立とか、相まみえない何かぶつかっている、ぶつかっていないなくても隔てられている、そのよ
うな状況さえも、関わりが柔らかなものとなり、そこに新しい協力が、理解が起こるようにすると主が言
われます。

9-16 濡れ衣ではないですが、何か自分がしたことではないのに悪くとられるというのは、本当に悲しい

というか腹立たしいことでしょう。

9-17 そういったものも時間とともに真実が何であるかということがちゃんと現れ、他の人々の理解するところとなると主は言われます。

9-18 ですから息子よ、今ある必要のない汚名というか、誤解といったものが取り去られて真実が残る日が来て、不要なものを燃やし尽くすように、残るものは残り、残らなくてよいものは消え去っていく、そのような整理された安心できる状況を体験するでしょうと主が言われます。

9-19 あなたのコミュニケーション、あなたの言葉、それを本当に喜んでいきますと主が言われます。

9-20 それは何か大きなステージで語るとか、だれか大きな偉い人に何か言うとか、そういったことではなく、身近にいる人に話す、話している言葉の意味、力がその人の人生を変えていると主が言われます。

9-21 それは幼く、未熟なように見え、理解するのも難しいように見える。

9-22 それは弱って、何か曲がって、縮こまっているように見える。

9-23 しかし、それを聞く耳は澄んだ真つすぐなものであり、その言葉の影響は大きな結果となって現れると主は言われます。